

小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業実施報告書（平成29年度）

（研究指定校用）

研究指定校名	北海道栗山高等学校	栗山町立栗山中学校	栗山町立栗山小学校 栗山町立角田小学校 栗山町立継立小学校
--------	-----------	-----------	-------------------------------------

1 研究テーマ

小中高 12 年間を見通したキャリア教育の体系化
「くりやま塾」による、ふるさとを大切に思い、地域の未来を担う人材の育成を目指して

2 研究の目的

キャリア教育の実践において、地域との関わりを見直すことにより、地域に関心を持ち、将来、地域を支える人材として活躍できる生徒を育成する。

3 具体的な研究活動

項目	取 組	取り組んだ内容等の説明
全 体	①全体計画の見直し	・キャリア全体計画を、校内の教育活動内で具体化するよう努めた。
	②キャリアノートを活用や改善点など	・実際に活用していく中で、4回の学校運営部会で小中高の教員が改善に向けての検討を行った。
地 域 ダ イ ス キ ！ プ ロ ジ エ ク ト	③地域の特性や教育資源を生かした取組	・平成29年12月2日(土) 「栗山町小中高ふるさとキャリア教育体験発表会」を実施。 小中高生それぞれによる体験学習の発表及び、地域企業・団体による地域の魅力・産業について児童生徒への紹介を行った。 (対象児童生徒：小学生29名、中学生21名、高校生43名、 参加：保護者・地域関係者・教育関係者120名)
	④講演会の実施	・平成29年6月28日(水) 第4回くりやま塾講演会を実施。 講師：栗山町若者定住推進室室長 三浦 匠 氏 町産業振興課農林業振興グループ主事 山口 拓人 氏 町総務課広報・防災・情報グループ主事 田畑 和也 氏 町若者定住推進室主事 天野 海斗 氏 演題「くりにイトするまち 栗山町 ～さあ、みんなでまちづくりをはじめよう！」 (対象生徒：高校全校生徒188名、参加：教職員20名、教育関係者21名) ・平成30年3月15日(木) 第5回くりやま塾講演会を実施。(予定) 講師：毛利経営コンサルタント事務所 代表 毛利 京申 氏 演題「未定」 (対象生徒：高校1・2年生116名、参加：教職員20名、教育関係者20名)

子どもダイスキ！プロジェクト	⑤座談会の実施	平成29年 9 月21日（木） 「栗山町育児サークルと高校生との座談会」を実施。 栗山町子育て支援センターにおいて、子育て中の母親に高校生が子育てに関する質問を行い、レポートにまとめる学習を行った。 （対象生徒：高校 3 年生選択授業「生活と福祉」7名）
	⑥出前授業の実施	平成29年10月26日（木） NPO法人子育て応援かざぐるま代表理事 山田 智子 氏 次代の親づくりのための出前授業を生かした「テーマ学習」を実施。 「安心して子どもを産み育てるための制度や地域のサポート体制など、将来親となったときに必要な情報を学ぶ」をテーマに、生徒が出前授業で学んだことをまとめ、意見交換を行った。 （対象生徒：高校 1 年生56名、参加：町教育関係者10名）
	⑦家庭科副読本を活用した授業の実施	10月～11月 「家庭科」副読本を活用した授業の実施。 少子化の状況と地域の子育てに関する取組について、プリントで情報をまとめ、グループごとに発表し、意見交換を行った。 （対象生徒：高校 1 年生56名）
その他	⑧その他、本事業に関連する活動の実施	- 平成29年 6 月14日（水） 町内一斉清掃を実施。 （対象生徒：高校全校生徒188名） - 平成29年12月15日（金） 老人クラブ中里長寿会・天寿の会交流会を実施。 お年寄りを高校に招いて、ゲームや調理実習を通じて交流を行った。 （対象生徒：高校 3 年生22名） - 平成30年 1 月 4 日（木）～12日（金）（8日間） 栗山町少年ジェット希望の翼へ参加。 オーストラリアでのホームステイを体験した。 （対象生徒：中学生 7 名、高校生 1 名） - 平成30年 2 月16日（金） くりやま子ども会議を実施。 いじめについて意見交換を行った。 （対象児童生徒：小学生10名、中学生 6 名、高校生 3 名）

4 キャリア教育サミット後の取組状況

- 平成29年12月 2 日（土）
「栗山町小中高ふるさとキャリア教育体験発表会」を実施
- 平成30年 3 月15日（木）
「第 5 回くりやま塾講演会」を計画
講師 毛利経営コンサルタント事務所 毛利 京申 氏（栗山町出身）を予定

5 三年間研究の成果と今後の取組	
小学校	(1) 研究の成果 ○ 地域の教育資源や人材等を積極的に活用し、社会的・職業的自立を目指した体験活動や発表会などを行うことにより、児童は「ふるさと栗山」の良さや働くことの意義について学びを深めるとともに、児童は本町に学び、育つことに自信と誇りをもつことができた。 ○ キャリアノートの作成、活用を通して、小・中・高 12 年間のキャリア教育を系統的にとらえ、全体計画として整備することができた。 ● 各学校の実態に即して事業を推進してきたが、キャリア教育を通して児童一人一人にどんな力を身に付けるか、教職員の共通の理解が必要である。 (※ 小・中・高で育てる 6 つの力を設定、それらを踏まえたキャリア教育の推進) (2) 今後の取組 ○ ふるさと栗山の自然や産業に対する興味関心を高め、体験を通して学び、発信する態度や能力を養うとともに、ふるさと栗山に自信と誇りをもつ子どもを育成する。 ○ コミュニティ・スクールと連動し、地域とともにある学校づくりの一環としてキャリア教育を推進する。
中学校	(1) 研究の成果 ○ これまでの職業体験活動を小・中・高一貫の視点から整理したことで、生徒は体験を通して自らの生き方や職業的自立について考えることができた。また、「自他を大切にする心」、「ふるさとを大切に思う心」をもつことができた。 ○ キャリアノートの作成、活用を通して、学年の発達段階や系統的なねらいを明確にすることができた。 ○ キャリア教育での体験活動や発表会が学校の教育活動を地域に発信する貴重な機会となり、地域における学校への理解が深まった。 ● キャリアノートの作成と活用などを通して、生徒の実態やニーズを的確に押さえ、小・中・高の一貫した取組を構築することが必要である。 (2) 今後の取組 ○ 本町の教育資源、人材の発掘と活用、企業との密接な連携など、地域と連携・協力による教育活動を創意工夫することによって、生徒の職業意識及びふるさと意識を涵養する。 (キャリア教育発表会などを開催、実施する。) ○ 地域企業、関係機関等と積極的な連携・協力を図る。 (※ 地域の活性化に積極的にかかわる学校教育を進める。)
高等学校	(1) 研究の成果 ○ 研究事業の様々な取組により、生徒は、自身の進路目標を決める一つの要素として、自らのふるさと、自らが生活する地域社会に対し、それを支える役割が期待されているという意識を深めることができた。 ○ 研究事業の取組を通して、町教委・小中学校・地元企業等地域社会全体と高校とが協力し合える体制を構築することができた。また、地域全体で地域社会を支えていく人材を育成していくという目標を共有することができた。 ● 校種によっては、様々な取組により、教職員の負担感が増しているという意見があり、既存の取組や教育課程上の教育活動との調整が更に必要である。 ● 取組には予算の確保も必要なものがあるため、事業終了後どのように予算を確保して取組を継続するか検討が必要である。 (2) 今後の取組 ○ 研究事業により構築できた町教委及び地域の小中学校との連携を、事業終了後も維持しながら、合同で行う取組を可能な形で継続する。 ○ 地域社会及び連携している富士大学並びに北海道介護福祉学校等と協力関係を深めながら、講演会や出前授業等外部の教育的資源を生かした取組を進める。

6 研究の成果物
○ 栗山版キャリアノートを各校種各学年で作成

補助資料

[研究内容] ○ 「第4回くりやま塾講演会」を実施



[栗山町若手職員による講演]



[北海道通信 平成29年7月25日]

[実施日]

平成29年6月28日(水)

[実施時間]

14:05～15:05

[実施場所]

北海道栗山高等学校体育館

[運営者又は講師等]

栗山町若者定住推進室

室長 三浦 匠 氏

栗山町産業振興課農林業振興グループ

主事 山口 拓人 氏

栗山町総務課広報・防災・情報グループ

主事 田畑 和也 氏

栗山町若者定住推進室

主事 天野 海斗 氏

[協力先、連携先等]

栗山町役場

[参加者]

栗山高校全校生徒188名、教職員21名、教育関係者21名

[実施内容]

- ・演題「くりエイトするまち 栗山町～さあ、みんなでまちづくりをはじめよう！」

[実施後の児童生徒の変容]

- ・ふるさと栗山町を支える人材として活躍する若い世代の体験を聞くことにより、地域社会で自らが期待されている役割について理解が深まった。
- ・年齢の近い社会人の進路に関する体験談を聞くことにより、自分の進路目標の達成に向けて、具体的な道筋を考えるきっかけとなった。

[その他]

くりやま塾

「くリエイトするまち栗山町 ～さあ、みんなでまちづくりをはじめよう！～」 講演記録

平成29年6月28日（水）

14:05～15:05

北海道栗山高等学校 体育館

講師：栗山町若者定住推進室	室長 三浦 匠 様
栗山町産業振興農林業振興グループ	主事 山口 拓人 様
栗山町総務課広報・防災・情報グループ	主事 田畑 和也 様
栗山町若者定住推進室	主事 天野 海斗 様

司会：3年1組 川上夕佳・齋藤拓弥

【校長挨拶・講師紹介】

本日は多くのご来賓の皆様を迎えてこのような講演会を開催できることをうれしく思っています。

くりやま塾は今回で4回目となっております。生徒の皆さんに、地域について知識・理解を深めると共に、地域に愛着を持ってもらうことを目的としております。本日の講演をよく聴いて、将来、社会の一員としてどうあるべきかについて、さまざまなヒントをつかんでください。（講師紹介）

【講演要旨】

①三浦様

皆さんこんにちは。本日は高校生の前で話をさせていただく機会をいただき、ありがとうございます。

役場に就職して30年。赤平市出身で、深川西高をへて北海学園大学卒業後、1988年に栗山町役場に就職しました。地域に根付いた仕事をしたいという希望で就職しました。

役場には土木や道路、医療など非常に多岐にわたる仕事あり、現在は若者定住推進室にて仕事をしております。

「くリエイトする町……」という演題ですが、若い方に栗山町に定住していただくための仕事をしております。現在40歳未満の人口は約3,700人、10年前より3割の減となっております。全道的に「若者率」という人口に占める若者の割合は減っております。

町に若い人が居なくなると、町の商店や店舗も売り上げが伸びずに閉店していったり、公共交通機関（JRなど）も維持が難しく、どんどん公共サービスが受けられなくなったりして、生活しづらくなります。

若い人が居ないと、町も活気がなくなって寂しくなりますし、次の世代を生んで育てる人材が居なくなるので、ますます町の発展が厳しくなります。

パンフレットにある通り、「栗山町が危ない!？」ということで、調査したところ、栗山町の認知度・愛着度は札幌などと比べても低い数字になっています。

若者も交えた意見交換会の場で、栗山町には農業や自然などの魅力もたくさんあるけれど、情報発信力の不足、町内に希望する仕事が少ないところが弱みだという声が上がりました。強みにしてはこれからも大切に、弱みにしては工夫を凝らして改善していかなければ、という思いが強まるばかりです。

そこで「くリエイトする町」という合言葉を掲げ、栗山ならではの地域ブランドイメージを浸透させ、認知度・愛着度をアップさせることで、「住みたい町」になるような努力を、若者の皆さんと共にしていきたいと考えております。

具体的には、Facebook や twitter などの SNS をどんどん活用し、町内外にどんどん情報を発信して、町内はもちろん、町外の若い世代にも栗山町に興味関心をもってもらえたら、と願っております。

ぜひ、生まれ育ったこの栗山町についていろいろ知っていただき、「栗山のここが好き」ということをどんどん発信していただけたら、と思います。このプロジェクトの目的は、もちろん栗山町に若者がたくさん定住してくれることなのですが、必ずしも栗山町に住んでいなくても、思いを同じくして栗山町を大切に思う気持ちを持ち、プロジェクトに参加してほしいと思っています。

②山口様

★なぜ栗山町に就職したのか

札幌市出身 26歳 石狩南高校出身 サッカー部 北海学園大学法学部
2015年 栗山町役場入庁（現在3年目）

理由①公務員になりたかったから・・・実家は自営業で経済が不安定だったので、子どもながらに安定のある仕事がしたかった。公務員のイメージは、安定していて、福利厚生がしっかりしており、民間より業務が楽、というものだった。

理由②栗山町に縁があった・・・大学のゼミで「栗山町議会基本条例（日本で初めて策定した）」について学んだ。自分の学んだことが生かせるのは、栗山町だと確信して就職した。

★どのような仕事をしているのか

産業振興課の業務・・・農家の農業経営の相談、牛や鶏などの家畜に関すること、農地に出たクマやシカの対応、などで、大学で学んだこととは全くジャンルの違う業務内容。しかし、なかなか普通の人にはできない体験ができる。たとえば、狩猟免許の取得、チェーンソー免許の取得、ハンターの狩猟見学など。そして、人と人とのつながりが非常に深いことが魅力。役場内でもそうだし、町民の皆様とのつながりも深い。最初のイメージとは違ったが、とてもやりがいのある仕事だと思っている。

★高校生の進路について

栗山高校の生徒は、在学中に自分の進路を明確にイメージできていると感じる。自分で考えると共に、周りの大人（親・教員）のサポートも受けて、しっかりとした進路決定ができていないのか。就職と進学どちらが正解かという、明確な答えはないが、自分で選んだ進路を、自分で「正解だった」と思えるようにすることが大切なのではないかと強く思う。

③天野様

★自己紹介

小中学校は酪農大学付属高校→とあの森三愛高校卒業

★皆さんの将来の夢は何ですか？

私の将来の夢は、幼稚園の頃は相撲、仮面ライダー。身体が大きかったので、相撲の力士に向いているかなと思っていました。小学校時代は、サッカーの選手。中学校は消防士、中学校教員、地方公務員。高校になると地方公務員になりたいと思うようになりました。理由は、中学校教員だと先生はサッカーの指導者という立場で、自分がサッカーする機会が減ること。また消防士だと、サッカーをする時間がなくなるため地方公務員になりたいと思うようになりました。役場の職員の方は、町民が安心安全に暮らすことが出来る仕事であることから自分の憧れに一番近いと感じたので地方公務員になることに決めました。

★なぜ栗山町なのか？

小さい頃から栗山町に桜を見に来るなど遊びに来ていたこともあり、栗山町に魅力を感じた。また、ホームページに掲載されている町長の5つの基本目標を見て共感することができ、この栗山町の町作りしたいと思った。

★高校時代の生活について

通学時間は片道1時間かかっていたが、サッカー部をしていたこともあり通学時間は睡眠時間に充ててた。でも、地方公務員になりたいと思った時から、朝は4:30起床し勉強、通学時間も勉強時間にしてた。学校での休み時間にも勉強をして、栗山町職員になることが出来た。

★今の仕事、これからやっていきたい仕事について

栗山町若者シティブロモーションにかかる業務や移住相談窓口業務、SNSによる情報発信、Webサイトの管理運用を行っている。今後は、もっと仕事を覚えて意見を出せるようにしていきたい。栗山

町をもっと知り、SNS 等を通じた情報発信を行い栗山町の認知度を上げていきたい。

★これから皆に伝えたいこと

早く行動に移すこと。本気になれば、間に合うかもしれない。一緒に町作りをしませんか？なぜ、SNS やインターネットで栗山町をアピールしていったほしい。

④田畑様

★自己紹介

5 人兄弟（妹は三笠高校在学）

栗山中→岩見沢東（バスケットボール部）→弘前大学→栗山町職員（2 年目）

★何の仕事？

広報マンの仕事（取材、記事の作成、広報の作成）とホームページの管理・運営を行っている。

★仕事の感想とこれから

感想：初使用機器（一眼レフカメラ）やソフトの操作に悪戦苦闘。

これから：若者にも読んでもらえる広報の作成

★町職員を選んだ理由

①栗山町から恩恵を受け、恩返しの気持ちが強くなったこと

5 人目の兄弟が生まれたときに町から 100 万円をもらい、恩返しをしたいと感じた。

②大学時代に地元を離れたことで、栗山町の魅力に気づいた。

大学時代 1 人暮らしをしたことで栗山町の暖かさに気づくことが出来た。また栗山町は新千歳空港着まで 1 時間もかからず交通の便が良いところも魅力である。

③公務員になりたかった

大学 1 ～3 学年までは、東京での就職を希望していた。大学 4 年の時に公務員になりたいと思った。

【大学での出来事】

大学 3 年生の時に、進学か就職が悩んでいたが就職解禁と同時に 20 社近くの企業を受験。でも公務員になりたいと思い民間企業への就職をあきらめた。

★進学について考えている？

大学とは？視野を広げて考えることが出来る場所。

大学のイメージ・・・高校時代より勉強がかなり難しい。

長期休業は高校 3 週間くらい、大学は 2 ヶ月。

授業時間は高校 45 分、大学 90 分

大学って、どのくらいお金がかかるの？

授業料・入学金にお金がかかる。最近は授業料・入学金の免除申請が出来る制度もある。奨学金を借りて進学することも可能。

大学に通うメリットは？

- ・いろいろな時間の使い方が出来る。
- ・生涯収入も高卒より高くなる。
- ・幅広い就職の相談が出来る。 → 納得出来る就職が出来る。

★まとめ

進路の情報は自分で手に入れられる。（スマホの普及）

大学に進学することも、進路の一つとして含めて考えることが出来る。

最後に決めるのは自分

【 謝辞 】 会長：渡邊堅心

本日は、お忙しい中、「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業 地域ダイスキプロジェクト」を開いて頂きありがとうございます。私は栗山町在住ではないのですが、前回の栗山塾や今回の栗山塾の講話を通して栗山町について知ることが出来ました。栗山町を第 2 のふるさととして栗山町を活性化させて行きたいと思うようになりました。これからは栗山町活性化のために行動していきたいと思っています。

第4回 くりやま塾アンケート集計結果

H29.6.29

(A:そう思う B:どちらかというと思う C:どちらかと思うとそう思わない D:そう思わない)

Q1.部活動やボランティア活動を通じて、多くの人と係わることが大切だと思った。

	A	B	C	D	
1-1	21	5	0	2	28
1-2	17	10	0	0	27
2-1	17	13	0	0	30
2-2	24	5	1	0	30
3-1	11	16	3	2	32
3-2	17	8	1	1	27

Q4.自分の夢や目標を考えるきっかけになると思う

	A	B	C	D	
1-1	16	5	4	3	28
1-2	15	10	2	0	27
2-1	15	11	3	1	30
2-2	20	9	0	1	30
3-1	9	13	3	7	32
3-2	12	11	3	1	27

Q2.自分の将来について考えるきっかけになると思う。

	A	B	C	D	
1-1	15	7	3	3	28
1-2	16	11	0	0	27
2-1	18	11	1	0	30
2-2	24	6	0	0	30
3-1	8	14	4	6	32
3-2	11	10	3	3	27

Q5.自分も他人も区別することなく、人を大切にすることが「安心」につながると思った。

	A	B	C	D	
1-1	17	7	2	2	28
1-2	17	10	0	0	27
2-1	17	11	2	0	30
2-2	21	9	0	0	30
3-1	12	14	3	3	32
3-2	15	9	2	1	27

Q3.様々な仕事について知りたいと思うようになった。

	A	B	C	D	
1-1	12	12	1	3	28
1-2	16	7	3	1	27
2-1	16	12	1	1	30
2-2	21	7	2	0	30
3-1	9	14	4	5	32
3-2	11	12	2	2	27

Q6.自分の「ふるさと」を大切にしていきたいと思った。

	A	B	C	D	
1-1	17	8	0	3	28
1-2	17	10	0	0	27
2-1	20	10	0	0	30
2-2	20	9	1	0	30
3-1	9	15	3	5	32
3-2	13	10	2	2	27

○ 自由記述欄

- ・緊張していた。いい講演だった。話を聞いて将来のことについて詳しくなった。
- ・この話を役立てて行きたい。自身の将来のことで考える必要があると感じました。夢を持つ事は大切だと思った。
- ・もっとまとめてほしい。私も栗山についてもっと知りたいと思いました。今回の講演は、将来役立つことばかりだったので、自分のためになりました。ありがとうございました。
- ・とても聞きやすかった。自分も栗山町のために出来ることはしたいと思いました。年齢が近いのもあってとても分かりやすく、活かしていこうと思った。
- ・あらためて目標を立てる事が出来ました。ありがとうございます。
- ・ハキハキとしゃべってほしい。自分は、地元企業に就職したいと思っているから、とても参考になった。
- ・もっとお話を聞きたいと思った。とてもよかった。みんないい人たちだった。
- ・ふるさとを大切にしていきたいなと思いました。私は栗山出身ではないけど、栗山のことも自分の出身のところももっと知りたいなと思いました。
- ・今回、お話を聞くことができて良かったです。総理大臣になります。
- ・わかりやすくいいことが聞けました。すばらしかった。最後の人の表が見やすくわかりやすかった。
- ・栗山町の人口がどんどん少なくなっていて、残念でした。
- ・良かったです。今日お話をしてくれた皆さんが、栗山町の魅力に気づいて今栗山町で働いていて、私ももっと栗山町のいいところを知りたいと思いました。
- ・栗山町でやっていることについて自分たちの体験談なども語りながらいろいろと説明してくれたので、とても楽しめる内容だった。進路について考えられる機会になった。
- ・いいことが聞けた。大学の話は良かった。講師の人の話を聞いて、自分の将来を幅広く考えることができた。とてもわかりやすかったです。
- ・大人の方からの話はなかなかきけないから良いきっかけとなった。
- ・私は将来北海道を出るつもりなので、それまでの間、栗山町を大切にしていきたいな、と思いました。貴重なお時間ありがとうございました。これからの進路に役立てて行きたいと思います。
- ・クリエイティブな町、栗山町正直、今のまがが一番好きだったので、なんか嫌いになりました。きっと夕張みたいになっちゃうんだらうなとおもいました。

[研究内容]「栗山町小中高ふるさとキャリア教育体験発表会」を実施



[小学生発表]



[中学生発表]



[高校生発表]



[企業プレゼンテーション]

[実施日]

平成29年12月2日（土）

[実施時間]

9:15～11:45

[実施場所]

北海道栗山高等学校体育館

[運営者又は講師等]

栗山小学校 角田小学校 継立小学校
栗山中学校 栗山高校

[協力先、連携先等]

栗山町内企業（オークランド、植物育種研究所、松原産業、北海道銀行栗山支店、小林家）
栗山町役場、栗山町議会、町立介護福祉学校

[参加者]

栗山小学校5年生（児童17名）
角田小学校6年生（児童6名）
継立小学校6年生（児童6名）
栗山中学校1年生（生徒21名）
栗山高校2年生（生徒43名）
保護者、地域関係者、教育関係者（120名）

[実施内容]

- ・小中高生それぞれによる、職業体験の発表
- ・地域企業・団体による地域の魅力・産業について児童生徒への紹介
- ・栗山町副町長、空知教育局長による講評

[実施後の児童生徒の変容]

- ・高校生は、小中学生や地域関係者への発表活動を行うことにより、他者へ説明することに対し自信を持つようになった。
- ・企業・団体からの説明を聞くことにより地域への関心やふるさとへの愛着を高めた。

[その他]

平成 29 年度「栗山町小中高ふるさとキャリア教育体験発表会」レポート

栗山高校は、12月2日土曜日栗山高校体育館において、町内の小中学校と合同で、「栗山町小中高ふるさとキャリア教育体験発表会」を開催した。内容としては、町内の小中高の児童生徒が、各学校で取り組んでいるキャリア教育の体験活動について発表するとともに、町内の企業等が職業や産業、さらにふるさと栗山町の魅力について紹介を行った。

この発表会は、栗山町内の全ての学校が研究指定を受けている、道教委の「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」の取組の一環で、児童生徒、企業、保護者、地域住民が参加するキャリア体験発表会等を通して、地域の良さや地域での生活を営むことの意義について理解を深めることがねらい。今年で2度めの開催となるもので、町内の児童生徒93名、8つの町内企業・団体等が参加し、地域住民や保護者を含め約120名が参観した。

開会にあたり、研究主体校である栗山高校の高橋尚紀校長が挨拶。

「平成27年10月9日に北海道教育委員会から指定を受け、様々な取り組みがなされてきた小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業も今年度は最終年度に当たり、本体験発表会は集大成ともいえるイベントです。

栗山での研究テーマは、小中高12年間を見通したキャリア教育の体系化であり、研究目的は、キャリア教育の実践において地域との関わりを見直すことにより、地域に関心を持ち、将来地域を支える人材として活躍できる児童生徒を育成することです。それに基づいて、小学校では稲作体験等の農業体験学習や地元の方々を講師としたふるさと学習、町内の農家や工場での職場見学が実施され、中学校においては、高校大学の見学や、ふるさとの理解を深める郷土学習、町内事業所の協力を得た職場体験など、高校においては、子育て体験、福祉介護施設体験や、栗山について理解を深める講演会、インターンシップ、企業見学などが実施されました。

本日は、これらの実践を児童生徒がプレゼンテーションします。また、それぞれのブースで、町議会様、地元企業様の仕事についてご説明していただけるとのことです。大変御多用のなか御参加、御協力くださいましたこと感謝申し上げます。

事業を推進する中で、地域ぐるみでキャリア教育を支援する体制が構築され、児童生徒の郷土に対する理解と愛着が深まり、郷土で生活を営むことへの興味関心が高まっております。また、高校においては子ども大好きプロジェクトによって、子どもを育てることへの理解が深まっております。本発表会でこれらの成果を感じ取っていただければ幸いです。」と、発表会の成果に期待した。

続いて、栗山小学校、角田小学校、継立小学校、栗山中学校の児童生徒によるブース形式でのキャリア体験活動の発表が行われ、稲作体験や町内企業での職業体験などについて報告された。

第1ブース：栗山小学校～4グループがそれぞれ発表。

「栗山の自然と人の魅力を伝える ～栗山の進歩を目指して～」

異なる地域に住む5年生が栗山の魅力を伝える。「わが故郷栗山町」と「ともに生きる」2つのテーマで行った。「わが故郷栗山町」では、札幌の社会見学、宿泊学習、稲作体験を行った。「ともに生きる」では、介護福祉学校、くりのさとの見学を行った。栗山の自然や人の魅力を伝えることが、栗山の進歩につながる。栗山の進歩のために皆で協力したい。

第2ブース：角田小学校～1グループが発表。

北海道と歴史から学んだことを自分の将来を結びつけての発表。

北海道チーム。修学旅行先3か所から学んだこと。1つめとして、白老のポロトコタンでは、「いただきます。」は、アイヌが神様に感謝して、食べるときに手を合わせて言ったのが始まりで、感謝する気持ちを大切にしてきた。2つめとして、北小金貝塚では、縄文人が魚や栗を分け合って食べ、お互いを思いやる気持ちがあったから争いがなかった。3つめとして、洞爺湖は、およそ12万年前の噴

火によって、カルデラ湖ができた。温泉が出るというメリットもあるが、火山灰が発生したら住民に迷惑がかかることもある。

歴史チーム：氾濫した夕張川を命がけで渡った浅野志宇という人がいた。昔の稲作はいろいろな困難があったが、みんなで助け合い、なんとか稲作を成功させた。

角田の生徒も、学芸会などの様々な行事に挑戦し、自分の夢に向かって頑張っている。

第3ブース：継立小学校～2グループがそれぞれ発表。

体験学習のテーマは「稲作」。3月に苗床と苗の準備をし、5月に田植え、7月に草取りと水中生物の観察、9月に稲刈り、11月に炊飯学習（カレーライス作り）としめ縄作りという流れで1年間学習をした。機械がない時代から苦勞をして稲作を続けてきた農家の苦勞を知ることができ、自分で作ったお米のおいしさを味わい、稲わらを最後まで無駄にせずにしめ縄にする日本人の知恵の素晴らしさを実感するなど、1年間の学習を通じて大切なことを知ることができた。

第4ブース：栗山中学校～4グループがそれぞれ発表。

テーマ「職業体験発表」

栗山図書館、北洋銀行栗山支店、角田小学校、栗山小学校、ローソン栗山中里店、オークランド製造本部株式会社、西田農園、菱谷農園での職業体験について報告した。カウンター業務やお札の数え方、品出しなどの実際の業務を体験し、「働くとは何か」について考える機会となった。小学校での授業指導では学校の先生方の仕事について理解し、職場の方と話をすることで、社会人が仕事と家事を両立する大変さに気づき、普段接している先生や親への感謝の気持ちを述べていた。農園での体験では、自然との闘いであることを知るとともに、「将来の自分をイメージできるようになった」との報告があった。

また、栗山高校の生徒からは、職業調べやインターンシップでの体験の報告があった。

栗山高校

1年時に実施した仕事調べで、社会人として大切なこと、地方の企業や産業について理解することやコミュニケーション力や礼儀を身につけることが大切だと学んだ。

2年時に実施したインターンシップでは、進路について具体的に考えることができ、より身近な企業で、進路決定のヒントとなるよい機会となった。働くことの意味や、職場でのマナーなどを考えることもできた。栗山町役場では、取材の仕方、広報の写真の撮り方、人の話をきちんときくことなどを学んだ。北雄ラッキーでは、マナー、コミュニケーション力、客が満足できるサービスや接客の仕方などを学んだ。谷田製菓では、仕事のつらさ、経営していくことの厳しさ、働くことの重要性、昔ながらの味を作り続ける仕事のやりがいなども学んだ。

児童・生徒の発表が終わった後、栗山町の佐々木学副町長が「小・中・高生の発表を通じて感じたことは、栗山を想う気持ちの強さでした。栗山の自然や産業や歴史について、昨年よりさらに工夫を凝らした発表となっていて、どの学校も甲乙つけがたく大変素晴らしかったです。今回の経験を通して、栗山について知り、人とのつながりを実感できたのではないかと思います。ぜひ、今後の“栗山ライフ”につなげていただきたいものです。これからも、栗山の宝物をもっと探して、若い人の感覚でそれを磨き上げ、誇りある『ふる里』にしていけるよう、行政としても町民の皆さんと共に協力し合い、町作りに取り組んでいきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。」と感想を述べた。

その後、オークランド製造本部、植物育種研究所、松原産業、小林家、北海道銀行から、各企業で行っている仕事内容や、栗山町議会、栗山町役場若者定住推進室、北海道介護福祉学校の取組等について説明があり、ふるさと栗山について理解を深めた。

第1ブース：オークランド製造本部株式会社

おもな事業内容や取引先、家具を製造するまでの工程について説明いただいた。オーダーメイドの家具を製造するには、職人の高度な技術が必要であること、機械だけではできない職人の腕によって変わってくるものであることを学んだ。納品先には、児童・生徒がよく知っている町内のこどもクリニックなどがあり「見覚えがある」などの声が上がっていた。

栗山町では、町内の家具会社・工房による組合を設立し、「クリヤマファニチャー」としてブランド化し、「家具のまち」を発信することで地域の活性化や未来の家具職人の受け皿にするための取り組みをしていることを学んだ。

第 2 ブース：株式会社植物育種研究所

新しい品種の野菜を作る仕事をしており、種を作って J A や種屋などに販売している。会社の奥に畑と 50m のビニルハウスが 50 棟あり、タマネギを 800 種類ぐらい作っている。タマネギの種は 2 年がかりで作る。

ここにしかないものを作れば栗山の農家が儲かるように自分たちで値段を決めることができる。健康になるタマネギがあれば売れるのではと思い、世界から 300 種のタマネギを集めて、健康成分が多い「さらさらレッド」を開発した。現在では栗山の 18 軒の農家だけで作っており、成分分析をしてから販売している。また、ハウス食品、理化学研究所と共同研究を行って、世界で初めて辛いタマネギ「スマイルボール」を開発し、今年から販売している。

品種改良の大変なところは時間がかかることと土日休めないこと。新しい品種を 1 つ作るのに大体 16 年かかるから、世の中の先のことを考えなくてはいけない。いいところは、農家や消費者がお金を払って買ってくれたのにありがたうと言ってくれることや、いろいろなお客さんと接することができる。

品種改良をするのに資格は必要ないが、できれば大学の農学部や農業高校で農業を学んだ方がやりやすい。また、世界中に出て行くのに英語ができないと苦労する。

※スマイルボールの試食

第 3 ブース：栗山町立北海道介護福祉学校

あと 8 年で介護人口は 38 万人不足すると言われている。介護福祉学校は日本で唯一の町立の福祉学校であり、まだ高齢化が社会問題になっていなかった 30 年以上前に、将来必ず高齢者福祉が課題になるという考えで設立された学校である。介護には、「誰にでもできる介護」と「誰にもできない介護」があり、関わった人のその後の人生を左右する介護のプロとして活躍できる人材を育成するのが使命である。卒業生は、介護の現場でリーダーとして活躍する人が多いのはもちろん、公務員や養護学校の職員、施設の経営者など、様々な場で頑張っている。

第 4 ブース：栗山町役場若者定住推進室

地域のことをしてもら、くりやま若者プロモーション事業の取り組みを行う。合言葉は、「くりエイトするまち」。町の人口は 12344 人ですが、2040 年には 7259 人まで減少する予測が出ており、人口減少が大きな問題となっています。外から人を呼ぶ移住と、住み続けたい定住をしてもらうために、様々な取り組みを行う。町に魅力があるのに、仕事がない、みんなが集まる場所がないことが課題。町の魅力を発信し、PR 活動を行う。まちづくりは、特別なことではなく、自分事のできる、誰もがができることである。

第 5 ブース：栗山町議会

「議会ってなあに？」という質問から、小学生から高校生までわかりやすく町議会のしくみや、栗山町議会の特色について説明をいただいた。

栗山町議会では「議会報告会」を年 1 回以上行うことを定めた議会基本条例があり、情報公開と町民参加に努めていること、このような報告会を行ったのは、栗山町議会が日本で 2 番目であり、北海道では初めてになること、13 年間という長さで行っているのも栗山町だけであることを学んだ。また、中学校の教科書にもこのことが掲載されていることを紹介していただいた。栗山町の先進的な取

り組みについて学ぶ貴重な機会となった。

第 6 ブース：松原産業株式会社

木材の生産とフローリングの生産が主な仕事。昭和 6 年、木材業の松原組として始まった。昭和 23 年 4 月に東京に本社をおいて松原産業を設立。現在は栗山が本社で東京は支店となっている。アップル車検栗山自動車整備や栗山自動車学校も系列会社。

看板広告の製作と取り付けも行っており、自立式は土台から造る。シート式は凹凸があるものにも貼れ、ファイターズ優勝パレードの車にも施工した。コンクリートむき出しの外壁にも貼れる。グラフィックスプリント事業部では、パソコンでデザインして大型のプリンタで出力している。ペイントフィルムは終わった後きれいに剥がせるので壁面を傷つけない。透明シートに表裏別の図柄を印刷したり、外から見えるが中からほとんど見えない印刷、バックライトを当てて鮮やかに見せる印刷など、特殊な印刷もしている。

※サイディングにペイントフィルムを貼る体験（2 名）

第 7 ブース：株式会社 小林家

「小林家」として現在一般公開しているのは、歴代の北の錦の社長が住み続けてきた、築 120 年の建物で、多くの客人をもてなすための部屋が 23 部屋もある屋敷である。3 年前に社長が逝去した後、家を守っていくためにツアーという形で一般に公開することになり、会社として女性 5 名で起業した。「男は酒を造り」「女は家を守る」という厳格な決まりのもと、商売がいい時も悪い時も「もったいない」を貫いてきた小林家の女性達の軌跡が至る所に息づいている。ツアーは 1 時間 15 分で 1,000 円の費用がかかり、最後にお茶と甘酒とお菓子をいただくことができる。

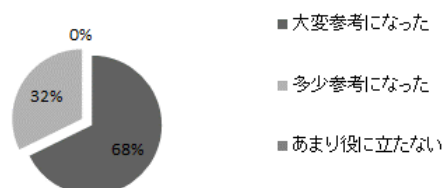
第 8 ブース：北海道銀行栗山支店

ペッパー君、タローの紹介。銀行の仕事の 3 つの役割について紹介。1 つめは、お金を預かる（預金）こと。1 億円の札束は、1 メートルになると説明。2 つめは、必要な人にお金を貸す（融資）こと。3 つめは、お金を送る（為替・送金）こと。お札の数の数え方を、縦に数えたほうが速いか、横に数えたほうが速いかを実践し、横に数えたほうが速いことを見せた。

閉会式では、各学校の代表が、今日一日の感想を発表した後、最後に道教委を代表し、北海道教育庁空知教育局小山茂樹局長から「児童生徒の皆さんは、緊張しながらもよく発表に取り組んでいました。昨年よりいいところは、職業体験の前によく調べ、発表のためにさらによく調べることができていたことです。体験を通して、働く意義について感じたり、コミュニケーションが大切であることについて、身をもってお話していただきました。発表の中では、動画を取り入れるなどの工夫も見られました。発表の仕方としては、特に中高生の皆さんは、相手を見て堂々と発表することがよくできていました。高校生は小中学生の案内役も務め、町民や大人の目から見ても大変頼もしく感じました。このように町内の学校が集まり、交流することは、互いの考え方を知る良い機会です。ふるさとの自然・仕事を学習し、発表する体験は、今後の学校生活に役立つものです。さらに充実させていってほしいと思います。町議会、町役場、企業の方々の多大なる御支援に感謝するとともに、道教委の事業 3 力年の最終年度として、御協力いただきました町教委の皆様にも感謝申し上げます。『ふるさは栗山です』を合い言葉に、栗山町での快適な生活を送られること、ますますの御発展を祈念して御挨拶とさせていただきます。」と児童生徒へ励ましと地域関係者への感謝の言葉を送った。

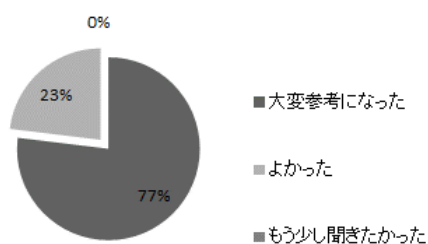
ふるさとキャリア教育発表会アンケート結果(高校生)

1. 栗山高校2年生のプレゼンの感想(31名) 地域を知ったり自分の将来を考えたりする上で

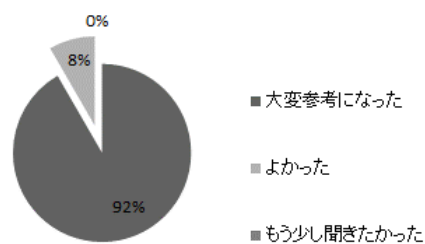


2. 地域の企業等の話の感想

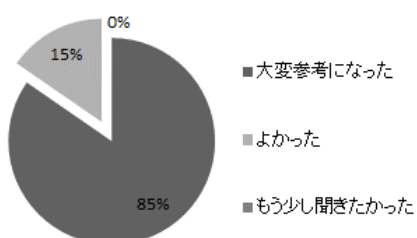
〈第1〉オークランド(家具)について(13名) 地域を知ったり自分の将来を考えたりする上で



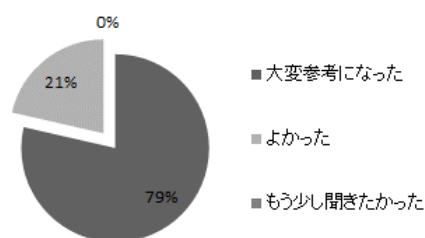
〈第2〉植物育種研究所について(12名) 地域を知ったり自分の将来を考えたりする上で



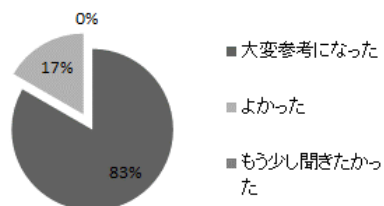
〈第3〉北海道介護福祉学校について(13名) 地域を知ったり自分の将来を考えたりする上で



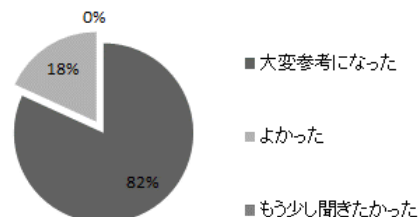
〈第4〉若者定住推進室について(14名) 地域を知ったり自分の将来を考えたりする上で



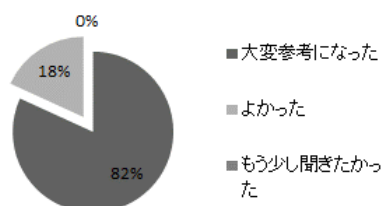
〈第5〉栗山町議会について(12名) 地域を知ったり自分の将来を考えたりする上で



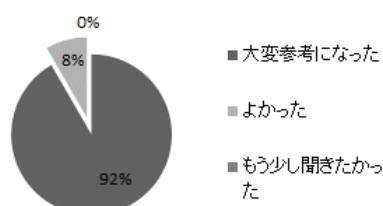
〈第6〉松原産業について(11名) 地域を知ったり自分の将来を考えたりする上で



〈第7〉小林家について(11名) 地域を知ったり自分の将来を考えたりする上で



〈第8〉北海道銀行について(12名) 地域を知ったり自分の将来を考えたりする上で



○ 高校生アンケート 感想

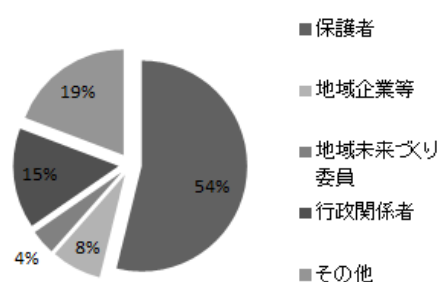
- ・実際に企業の方からお話を聞くことができ、身近なのに知らないことがあり、貴重な体験でした。
- ・小林家の歴史がすごくおもしろかった。
- ・小学生たちの発表がとても素晴らしかった。
- ・いろいろなところから話をしに来てくれたのはすごく貴重だと思った。
- ・黒山町議会や企業について、私が生活している町について知らなかったことがたくさんあったので、大変勉強になりました。進路選択の参考になりました。
- ・とても参考になりました。
- ・小学生がメモも見ずに頑張って発表していてすごいと思った。
- ・栗山町の企業にとっても興味を持ちました。
- ・小学生の声が大きくて聞きやすかった。
- ・仕事はやはり辛いと思った。
- ・玉ねぎが全然辛くなかった。
- ・話を聞いてどこの企業も栗山をもっと有名にすることを考えていた。植物育種研究所で食べた玉ねぎがおいしかった。
- ・小学生や中学生にもわかりやすく説明していてよかったなと思った。
- ・みんなそれぞれ準備してきたことを、今日この場で発表し、成功していてよかった。一生懸命やっていたのが伝わってきた。

○ 高校生アンケート 意見やアイデアなど

- ・ブースの音（話）が聞き取りづらかったです。
- ・企業の説明がおもしろく分かりやすかった。
- ・各ブースの席を増やすとよい。
- ・これからもこのような体験をして、栗山の活性化につなぐことができればいいと思う。
- ・会場のイスが足りない。
- ・将来に生かせる良い体験だと思う。
- ・もうちょっと時間があってもよいと思う。
- ・動画が流れているときにもう少し詳しく説明してほしいです。
- ・高校生や企業の方は小学生にわかりやすいような言葉を選ぶといいと思った。
- ・より細かくアンケートをしたほうがいい。移動しやすくしたほうがいい。

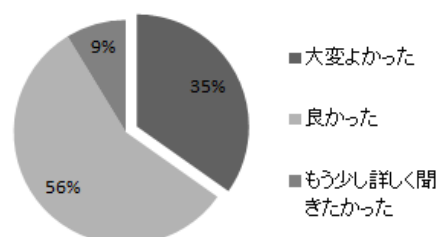
ふるさとキャリア教育発表会アンケート集計結果（一般参加者の感想）

1. 所属(40名)

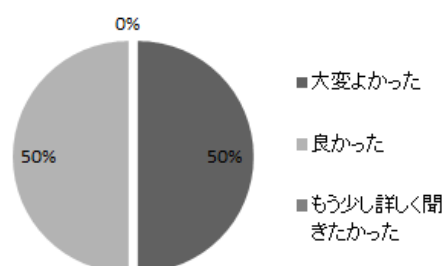


2. キャリア体験発表の感想

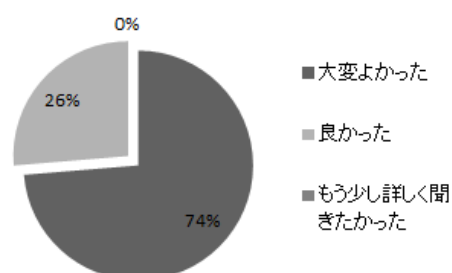
1. 栗山小の発表について(23名)



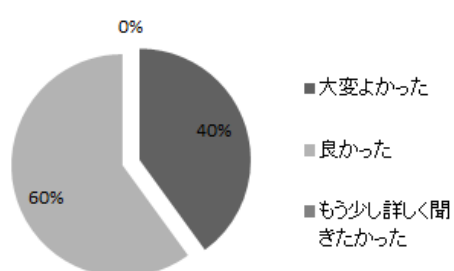
2. 角田小の発表について(20名)



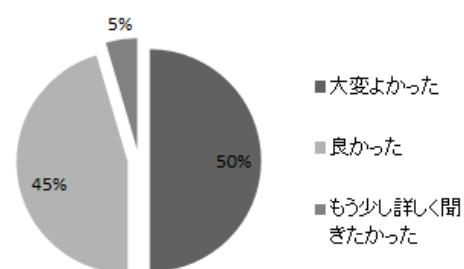
3. 継立小の発表について(19名)



4. 栗山中の発表について(20名)

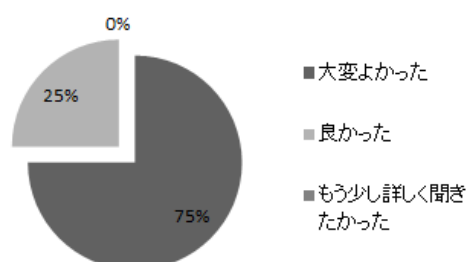


5. 栗山高校の発表について(22名)

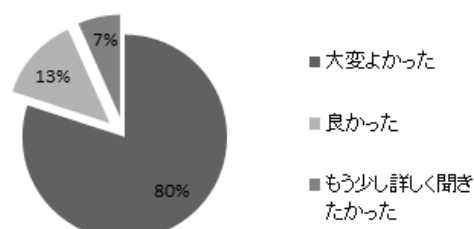


地域企業によるプレゼンテーションや体験の感想

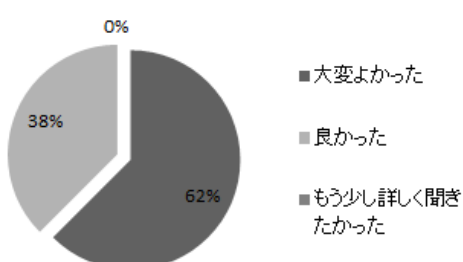
1. オークランド(8名)



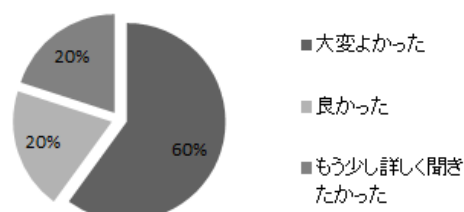
2. 植物育種研究所(15名)



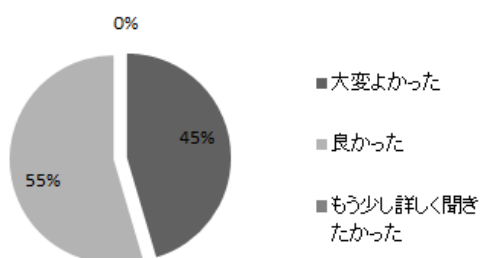
3. 町立介護福祉学校(8名)



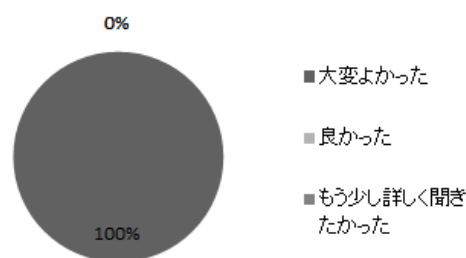
4. 栗山町役場若者定住推進室(10名)



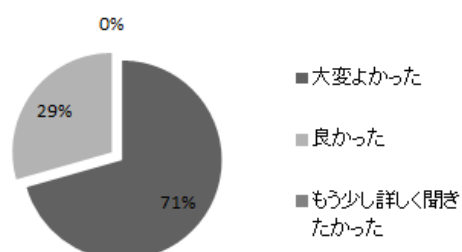
5. 栗山町議会(11名)



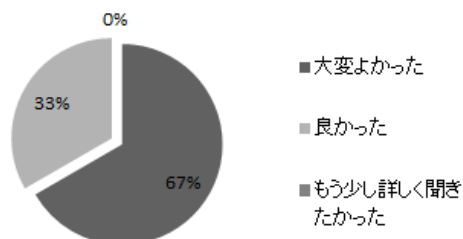
6. 松原産業(7名)



7. 小林家(17名)



8. 北海道銀行(6名)



○ 一般参加者アンケート 特に印象に残った学校・発表内容

・発表の内容がまとまっていて、学びがしっかり伝わりました。(栗高)

- ・栗山中学校・菱谷農園
- ・小学生は皆真剣に取り組んでいた内容に感銘を受けた。中学生、高校生の発表は聞き取りやすくよかった。栗山町を知るうえで、起源から学習することは非常に良いと思います。栗山愛を磨いてほしいです。
- ・継立小学校は、体験内容をより深く発表しているように感じました。
- ・継立小。米作りについて一年を通しての流れがよくまとめられていたと思います。小学→中学→高校と学年が上がるごとに発表内容がしっかりとしてくるものだなと感じました。
- ・角田小の発表。もう少し長くてよかった。全体的に短くて、もう少し深い話を聞けたらよかった。
- ・高校生はステージを使い、マイクを通していたので、内容を含めてとてもよかったと思います。
- ・継立小の米作りです。米の育て方の大変さ、季節の移り変わりでの仕事の内容などがよかったです。
- ・栗山小の発表がよかったですが、声が小さくて聞き取りづらかった。
- ・継立小。食料の自給についての考察。
- ・角田小の生徒さんの発表の姿勢が素晴らしかった。
- ・今年は栗高の発表が印象に残りました。

○ 一般参加者アンケート 感想、印象に残ったこと。

- ・栗山に住んでいても知らないことがまだまだあるということがわかりました。それに触れる機会がなかなかないことと、知ること（情報）も少ないと思いました。自分のブースにいたので他の話を聞けず、残念でした。
- ・児童、生徒のプレゼンテーションがとても良かったです。
- ・栗山町の子どもと大人を、仕事という視点でつなぐ良い機会だと思います。
- ・体験報告会で、子供の体験してきた様子や思いを見ることができて良かったです。それぞれの取り組みが素晴らしかった。
- ・すべての職場においてコミュニケーションが必要と言っていたのが印象に残りました。この体験を通じて、いろいろな仕事に興味を持ち、子供たちの仕事の選択肢が増えてくれるといいと思います。
- ・②の話は勉強になりました。栗山からすごい発信だ。
- ・小林家はぜひ行ってみたいと思いました。4の定住推進室の話が、声が小さくてよく聞こえなかった。もう少し何か加えて話したほうが聞くほうも楽しめると思います。
- ・玉ねぎはとてもおいしい。今度、ふるさと納税します。
- ・玉ねぎがおいしかった。ふるさと納税の返礼品と聞いたので納税します。小林家のお話も興味深かった。
- 様々な年代の子どもたちが地域への理解を深めることに取り組む機会があることは、地域を継続していくために大切なことだと感じられました。
- ・企業プレゼンテーションを3つ以上聞きたかった。
- ・小中学校の発表は声が聞き取りにくかった。
- ・小林家のお話がとても上手だった。玉ねぎは本当に甘かったです。介護学校は、私も介護職に携わっているので興味深かったです。小中学生の発表は、声が小さい子が多くて聞こえないのが残念でした。
- ・栗山に住んでいても初めて聞いたことが多くて、大人でも勉強になりました。玉ねぎが辛くなくておいしかった。
- ・地域企業のプレゼンテーションを聞いてとても勉強になりました。これを参考にもっと地域の企業に興味を持ちたいです。
- ・企業のお話を聞くことでより身近に感じることができました。
- ・栗山町の地域の良さをとても感じることができました。全体の進行をした栗山高校の生徒が立派でした。

キャリア体験発表会に対する意見やアイデア

- ・人数の関係もあるが一部の児童、生徒の取り組みであることが残念。特別支援の子たちの存在がないのも、福祉の町なのにとっても残念。栗高の生徒主導で受け付け、誘導などやるのもよいのでは？
- ・子供たちの仕事に対する態度や姿勢の動機づけに役立っていると感じて、意義のあるプロジェクトでした。
- ・せっかくの発表でしたが声が小さいこどもの発表はあまり聞こえませんでした。何か聞きやすおアイデアがあれば良かったです。
- ・発表の子どもたちの声が全体的に小さくて聞き取りづらかった。隣のブースの発表と声がかぶらないように、1ブース開けるとかしてもらえると聞き取りやすい？
- ・初めて参加しましたが、まあまあ楽しかったです。

〔研究内容〕 ○ 次代の親づくりのための出前授業を生かした「テーマ学習」を実施



〔出前授業を実施〕

〔実施日〕

平成29年10月26日

〔実施時間〕

11:45～12:35

〔実施場所〕

北海道栗山高等学校視聴覚室

〔運営者又は講師等〕

NPO法人子育て応援かざぐるま代表理事

山田 智子 氏

栗山高校家庭科教諭

山田 真規子

〔協力先、連携先等〕

NPO法人子育て応援かざぐるま

〔参加者〕

栗山高校 1 年生57名

〔実施内容〕

- ・「安心して子どもを産み育てるための制度や地域のサポート体制など、将来親となったときに必要な情報を学ぶ」をテーマに、生徒が出前授業で学んだことをまとめ、意見交換を行う。

〔実施後の児童生徒の変容〕

- ・自分が生活する地域社会における子育て支援の取り組みや制度などに対して、興味関心が高まり理解を深めた。

〔その他〕

[研究内容] ○ 「栗山町育児サークルと高校生との座談会」を実施



[子育て中の母親と交流]



[質問する生徒]



[栗山町広報記事]

[実施日]

平成29年9月21日

[実施時間]

10:45～11:35

[実施場所]

栗山町子育て支援センター

[運営者又は講師等]

栗山町役場住民福祉課福祉・子育てグループ
岡山 美智子 氏
栗山高校家庭科教諭 山田 真規子

[協力先、連携先等]

栗山町役場住民福祉課福祉・子育てグループ

[参加者]

栗山高校生 7 名

[実施内容]

- 栗山町子育て支援センターにおいて、子育て中の母親に高校生が子育てに関する質問を行い、レポートにまとめる学習を行う。

[実施後の児童生徒の変容]

- 自分の人生設計の中に位置づけて、子育てについての具体的なイメージを持つきっかけがつかむことができた。

[その他]

[研究内容] ○ 子どもダイスキ！プロジェクトと関連した事業
(保育実習の実施)



[園児と交流]



[1年1組 園児との遊び]



[1年2組 園児との遊び]

[実 施 日]

平成29年9月13日(1年1組)、9月14日(1年2組)

[実施時間]

8:45～10:00

[実施場所]

栗山町いちい保育園

[運営者又は講師等]

栗山町いちい保育園 園長 福士 由香里
栗山高校家庭科教諭 山田 真規子

[協力先、連携先等]

栗山町いちい保育園

[参加者]

栗山高校1年生58名

[実施内容]

- ・ 保育園の園長から、園児への接し方や留意事項について指導。
- ・ 高校生が小グループに分かれて、園児が楽しめるゲームを制作し、交流した。
- ・ 園児と自由に遊びを体験した。
- ・ 保育園の先生と高校生が感想や意見交換を行い、体験した感想や園児への接し方、子どもに対する気持ちなどを振り返る。

[実施後の児童生徒の変容]

- ・ 子どもとのふれあいを通して子どもの成長・発達や子育てへの興味関心が高まった。
- ・ 子どもに対する適切な態度や接し方を学び、子どもとのコミュニケーション能力が高まるとともに、自らの様々な対人関係の課題を振り返ることができた。

[そ の 他]

〔研究内容〕「介護福祉学校訪問」（栗山小学校）



〔学生とのグループトーク〕



〔学生による「仕事とは」の講義〕

〔実施日〕

平成29年11月20日（月）

〔実施時間〕

5 ～ 6 時間目

〔実施場所〕

北海道介護福祉学校

〔運営者又は講師等〕

北海道介護福祉学校 2 年生の皆さん

〔協力先、連携先等〕

北海道介護福祉学校

〔参加者〕

栗山小学校 5 年生 58 人

引率（教員） 2 人

〔実施内容〕

介護福祉学校の概要説明に加え、「仕事とは何か」というテーマについて、学生なりの仕事観を聞いた。その後はグループトークを行い、学校選択の理由や進路等について話していただいた。結びには、子どもたちの質問に答えてもらったり意見交換をしたりする時間をとっていただいた。

〔実施後の児童生徒の変容〕

事前学習において、「何のために働くのか」という問いを子どもたちと考えていた。お金のためや家族のため、社会のためという答えは出たものの、実感がともなわない答えであった。

学生の話の中で、「人のために働く」「自分が満足するために働く」という考えに触れ、自分ごととして考えられるきっかけをもらったように感じている。

今後、子どもたちが「自分のために働くにはどのような仕事を選ぶと良いのだろう」というようなテーマのもとで進路決定をすることができるだろうと考えている。

〔その他〕

綿密に介護福祉学校との打ち合わせを行うことができ、子どもたちが自らの進路を考える上で非常に有意義な活動となった。

[研究内容]「稲作体験学習：田植え」(角田小学校)



[講師の田村さんから作業説明を受ける]



[田村さんの指導で代掻きをする]



[上級生が下級生を教えながら活動]



[地域の方の学習サポート]

[実施日]

平成 29 年 5 月 29 日 (月)

[実施時間]

10:30~12:00

[実施場所]

学校そばにある水田

[運営者または講師等]

講師：田村 賢治 氏

(有限会社 粒里 代表取締役)

本校職員 10 名

[参加者]

角田小学校全校児童 57 名 保護者 11 名

[実施内容]

- ・一昨年度より全校児童対象に実施
- ・(有) 粒里の水田を提供いただいている。
- ・縦割り班 4 班に分け、区画を決めて、上級生が下級生に教えながら実施している。

[実施後の児童生徒の変容]

- ・米づくりの大変さを実感した。
- ・いろいろと学習サポートしてくださった方への感謝の気持ちをもつことができた。

[その他]

- ・地域の方々のご協力により作業補助をいただけた。
- ・地域おこし協力隊による学習支援協力を得ることができた。

〔研究内容〕「稲作体験学習（稲刈り）」（継立小学校）



「刈る・運ぶ・縛ってはさがけする」の3グループに分かれ作業を行った。

子供たちは鎌を使い、手作業で稲を収穫した。学年が上がるにつれ作業の進め方が上手になり、下級生に鎌の使い方を教えるなど、積み重ねた学習の成果を発揮した。

中には自分用の作業着や丈夫な手袋など、万全の準備をする児童の姿も見られた。

収穫した米はこのあと炊飯学習で使用するほか、地域の授産施設に寄贈された。



広報くりやま（9月20日）から継立小学校（豊田智博校長）の3年生から6年生までの児童28人が20日、校舎横の片山肇さんの水田で稲刈りを体験した。

南部耕地出張所職員の指導のもと、児童たちは刈り取りや運搬、束ねて縛る係などの役割を決め、収穫を開始した。5月19日に植えた「ゆめぴりか」の稲に鎌を入れた。収穫したお米は11月の炊飯学習で味わった。炊飯学習前には6年生の児童会長が「束ねて縛るのは難しかったけど、刈るのは簡単で気持ち良かった。収穫したお米でカレーライスを食べるのが楽しみ」と話してくれた。

〔実施日〕

平成29年9月20日（水）

〔実施時間〕

3・4時間目（10：25～12：00）

〔実施場所〕

片山農場（栗山町字継立 校地の隣）

〔運営者又は講師等〕

片山 肇さん（農地貸出・日常の管理と助言）

〔協力先、連携先等〕

北海道空知総合振興局

空知農業改良普及センター空知南東部支所

産業振興部南部耕地出張所

栗山土地改良区（水土里ネットくりやま）

〔参加者〕

継立小学校3年生～6年生 28名

教職員 8名

〔実施内容〕

＜事前準備＞

服装、持ち物の確認、班の作業場所・役割の分担、稲の刈り方の事前学習

＜当日の内容＞

①集合・開会式（進行～6年生）

②作業

③後片付け

④閉会式（進行～6年生 感想発表は各学年1名）

〔実施後の児童生徒の変容〕

1学期に田んぼの1年や、米作りの楽しさや労苦について事前学習を行った後、田植えを実施した。また、同じく1学期に草取りを行って手入れの大切さについて学んだ。こうした学習を経て、稲刈りを手作業ですること、子供たちには、米を大切に育ててきたという自信と、収穫の喜びの気持ちを抱き、勤労の尊さと大変さを体感した。更に、食べ物を大切に扱い、感謝して食事をしようという意識が、それまでよりも高まっていった。

〔その他〕

炊飯学習では、これまでお世話になってきた協力先の方をお招きして、カレーライスを作って食事会を開いた。

さらに、土曜授業では稲わらを再利用してしめ縄（しめ飾り）づくりを行い、先人の智慧についても学んだ。



[研究内容]「職場体験」(栗山中学校)



[体験の様子]

町内農家において、玉ねぎの選別業務を体験した。農家の方々の様々なアドバイスに耳を傾けながら、一つ一つの玉ねぎの特徴を捉え、振り分ける大切な作業を担当させていただいた。



[発表の様子]

10月27日(金)、校内において保護者を招き、職場体験学習報告会を実施した。学んだことをグループで協力してまとめ、プレゼンテーションの練習もしっかりと行って有意義な教育活動を振り返ることができた。

[実施日]

平成29年10月12日(木)～13日(金)

[実施時間]

9:00～16:00

[実施場所]

栗山町内全域

[運営者又は講師等]

栗山町内各事業所34カ所

[協力先、連携先等]

栗山町内各事業所34カ所

[参加者]

栗山中学校1年生90名

[実施内容]

- ・2日間の職場体験学習
- ・事前学習を学校と事業所の両所で実施
- ・実施後のお礼状作成
- ・職場体験学習報告会の実施(保護者参観)
- ・全道キャリアサミットへの参加(10月31日)
- ・キャリア合同発表会への参加(12月2日)

[実施後の児童生徒の変容]

- ・ふるさとの良さについて改めて学んだ。
- ・地域の人々や施設等についての関心が高まった。
- ・職業を含めた社会参画について一人一人が意識を高め学びを深めることができた。

[その他]